

## 背景

○道内の多くの人工林は、高齢級化が進み徐々に更新を伴う主伐期に移行している。  
○今後、主伐量が増大し、再造林量が増加すると予測される。

## 現状

○苗木の確保が困難になってくる。  
○労働力の不足が危惧される。  
○植付・下刈作業の機械化は困難。

## 課題

労力を軽減し、低コスト化した造林作業の確立に向けた検証

## 平成29年度の取組み

### ☆ 地域の現状把握聞取調査

○地域の造林作業等の現状を把握するため、市町村や森林組合に出向いて聞取調査を行い、その結果について分析したところ、地域の課題として、造林作業の省力化・低コスト化の可能性のある低密度植栽やコンテナ苗、一貫作業システムの普及が進んでいないことが分かった。

### ☆ 低密度植栽試験地の調査

○下刈：2000本植と比較し、1500本植、1650本植で工程が上がったが、1000本植では工程が下がった。  
○生長量：植栽2年目の生長率を分析すると、普通苗と比較してコンテナ苗の生長率が高いことを確認。  
○残幅の中の広葉樹を昨年度と比較したところ、ある程度の上長生長が確認された。

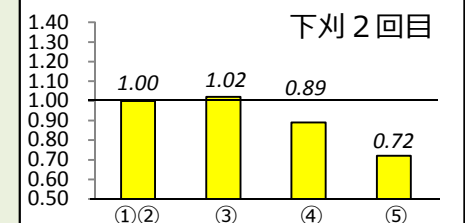
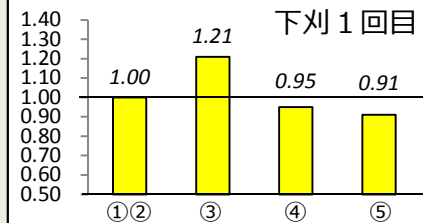


### ☆ 地域への情報発信

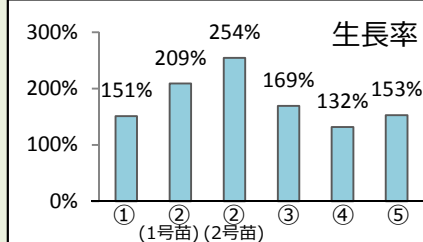
○現状把握聞取調査や各種会議の際に、低密度植栽試験地の調査結果について情報提供した。  
○コンテナ苗の生長状況を知るため、植栽5年目のコンテナ苗植栽地の生長量調査の際、森林室の方に見学していただき、コンテナ苗（1号苗・2号苗）、裸苗各50本の5年分の苗高・根元径を計測したデータを提供した。

### ◎ 下刈工程調査

\* ①,②2000本/haの作業時間を基準1.00として、各プロットの作業時間を比較した。



### ◎ 生長量比較調査



### ◎ 広葉樹発生状況



\* 苗高・根元径から算出した苗の体積を植栽時と2年目で比較し、平均の生長率を算出した。



### 今後の取組

☆現状把握の調査結果を活かし、造林作業の省力化・低コスト化に繋がる現地検討会を実施する。  
☆低密度植栽試験の継続と情報の発信